チャプレンだより　30

2026 年 11 月号　　チャプレン　大畑喜道

今月の聖句
良い地に落ちた種は
百倍の実を結んだ。
マタイ福音書　　13 章 1 節～

秋の実りの季節、幼稚園ではお芋掘りが行われます。こどもたちが育てていたお芋も今年の収穫はどうでしょう。土を掘り返して確かめるわけにはいきません。こどもたちが驚き喜んでくれることだけを願っています。今月は種まきの譬えからこどもたちと神様の恵みについて考えていきます。月の後半はクリスマスのお話を始めるので何回もないかも知れませんが。

大勢の群衆がイエスの話を聞こうと集まりました。そんな人々にイエスは語りかけます。種まきが種を蒔いていた。当時の農業はかなり荒っぽかったようです。種を蒔いてから畑を耕して、後は自然任せ。だからかなり多くの種は無駄になったのだそうです。堅い道に落ちた種、雑草の中に落ちた種。鳥についばまれたり、日照りで枯れたり、雑草に成長を抑制されたりしました。それと同じように、イエスが語る神の思いをしっかりと受け止めて自分の方向性を見詰めようとする人は少なかったのです。それでもイエスは毎日毎日種まきをします。芽が出ようが、出まいが構わない。種まきは毎日行われます。諦めずに神の思いを伝え続けます。神は、「私は良い土地にしか種は蒔かない。おまえが良い土地になったら種を蒔いてやる」とはいいません。み言葉の種は、どんな土地に対しても蒔かれます。たとえ全くみ言葉を受け付けず、蒔かれた種はそのまま鳥についばまれてしまうような、そんな道端であっても、私たちがそのような頑な心でいる時も、神はみ言葉の種を私たちの心に蒔いて下さっています。表面的にはみ言葉を受け入れて信仰の芽を出すけれども、心の中には堅い石がごろごろしていて、み言葉が深く根を下ろすことができない、そのために少しでも嫌なこと、つらいことがあると、信仰なんかやめたと言って捨ててしまう、そんな弱い者、つまずきやすい者であっても、神はみ言葉の種を蒔いて下さっているのです。また私たちが、この世の様々な思い煩いに捕えられ、あるいはいろいろな誘惑に目を奪われて、神を忘れ、目を背けてしまい、信仰の茎がやせ細り、いつのまにか見えなくなってしまう、なくなってしまう、そのような者であっても、その私たちに、神はみ言葉の種を蒔いて下さっているのです。それは神が、何とかして私たちを、み言葉の種が育ち実を結ぶ良

い土地にしようと情熱を傾けていて下さるということです。神は私たちを大切な存在として育んでくださっている。そして守り支えてくださっている。適度な雨を降らせ、日照を与えて愛してくださっている。そのことに感謝してどのようにその恵みに応えて行くのか。具体的な行動は、互いに愛し合って生きていくことに尽きます。

こんな譬えを読むと、み言葉を聞く人間には、道端と、石だらけの地と、茨の間と、良い土地の四種類がある、さて私たちは一体どの土地だろうと考える方がいます。石地のような土地だから、神の言葉は結実しない、この世の煩わしいことや様々な妨害にまけて成長できない。あまりわたしは良い土地だと自信を持って言える人は少ないかも知れませんね。しかしわたしはこの話はもともと、イエスに従って弟子たちに向って、あなたがたは良い土地だ。大きな実りを生み出すものだという励ましだったと考えています。マタイ福音書の 12 章 16、17 節に「しかし、あなたがたの目は見ているから幸い。あなたがたの耳は聞いているから幸いだ。はっきり言っておく。多くの預言者や正しい人たちは、あなたがたが見ているものを見たかったが、見ることができず、あなたがたが聞いているものを聞きたかったが、聞けなかったのである」。あなたがたの目は見ている、あなたがたの耳は聞いている、だからあなたがたは幸いだとイエスは言っています。「こういう条件を満たせば幸いになれるぞ」救われるぞということではありません。あなたがたはみ言葉を聞いて悟り、理解し、良い土地として実を結ぶことができている、本当によかったねとイエスは言っておられるのです。それが、このたとえ話でイエスが語ろうとしておられることです。イエスは私たちに、「頑張って良い土地になりなさい」と言っておられるのではないのです。こどもたちと礼拝をし、お話をしていると本当にそのことが良く分かります。神様が私たちを大切に思っている。だからそれを嬉しい、良かったと感謝して隣人を大切にしようねと言うと、みんなそんなの当たり前じゃんと反応します。毎日のように、その月の聖句を覚えて暗唱するこどもたち。彼らは本当に良い土地です。彼らに蒔かれた種は芽を出し、素敵な人生を歩むようになるだろうなと思っています。

教会からのお知らせ

11 月 15 日(日)10 時 30 分～

日曜日の礼拝の中で子どもたちの祝福の祈りを行ないます。10 時 20 分までに教会に直接お集まりください。なお個人的に祝福の祈りを希望される方は園長にお尋ねください。日程を調整します。